

ヒロシマ訪問記～代表派遣に参加して

8月5日一泊の広島平和記念資料館。一枚の写真の前にはたまたま。この写真は、1945年8月6日午前11時頃、爆心地から2.2km離れた御幸橋（みゆきばし）西詰めにおいて、撮影された1枚である。「20分ほどためらい、やっとの思いで、1枚目のシャッターを切った」と説明が付されていた。被爆後の広島の実相を最も早く捉えた写真の1枚と聞いた。

原爆は一瞬にして庶民の暮らしを地獄絵図に塗り替えてしまったが、そうした現場を訪ね、そこで暮らしていた人に思いを馳せることを、私は今回の派遣研修のテーマの一つにしていた。

翌8月6日午後、被爆証言者のかたから、御幸橋の上流にあたる鶴見橋でのお話を聴くに至り、写真や被爆遺構だけでなく、広島を歩いていても足下一面に悲惨な光景が広がっていたのだ、という思いが現実となった。この「被爆の実相」について考えを深め、伝えていくことが、目下の急務である。

（城下町 commons 武田英二）



御幸橋西詰めの碑



ジオラマ - 御幸橋付近

【ヒロシマ組合員代表派遣について】

生活クラブ神奈川独自の取り組みで意思ある組合員を募り、原爆の投下の8月6日に「湘南生活クラブの代表」として組合員を派遣しています。被爆地・広島を実際に訪れ、体感してもらうことで、平和の大切さを学んで次世代に繋ぐことを目的としています。なお、組合員派遣の費用は組合員から募るカンパ金を基にしています。

◀編集後記

2年ぶりに広報湘南の担当に。その間にさらに戦火はひろがり、数多の尊い命が奪われ続けています。「戦争だけは絶対にはじめてはいけない」（半藤一利氏のことば）。（米村）

10月4日 参加者 38名

クリスマス・お正月の消費材の優位性を組合員自身が多まわりの人たちにアピールし、予約率を上げることを目標に、commons・デポークリ正実行委員と運営委員を対象に開催、伊達巻、かまぼこなどの練り物の消費材について学びました。



こめや食品の川崎氏の話は、活動歴の短い組合員にとってもわかりやすく、不要な添加物を使用しない生活クラブの取り組みについても十分伝わるものとなりました。分厚く切ったかまぼこ・伊達巻を味わいながら、それぞれが学び考えた「腑に落ちた言葉」をワークショップで伝え合いました。「買って帰りたい。作るストーリーに感動した。この話を聞いてほしい。」「無リンすり身は特注品。」「原価積み上げ。」「市販の原料と生活クラブの原料のちがいがわかって良かった」などなど。さらにそれらを組合員に伝えてゆくことの大切さを実感する学習会となりました。



最後には、川崎氏からの食べ方提案で「伊達巻のバナナアイスのセバルサミコ酢がけ」を食べながら、おいしく学習会を締めくくりました。

【理事会報告】

第3回定例理事会（8月5日）

- ・2024年度第一四半期点検と下期対策
- ・2025年度湘南生活クラブ活動計画策定
- ・2024年度生活クラブまちづくり基金の推進活動について

第4回定例理事会（9月4日）

- ・2024年度中間監査実施について
- ・2025年度策定第1次討議
- ・2025年エコロ講座の講師団体の承認

湘南

サステイナブルなひと、生活クラブ

2024. 11月号

鎌倉C・逗葉・よこすか・藤沢北・湘南ふじさわ・茅ヶ崎・ひらつか・なかくん・城下町・はだの・足柄・ちがさき・らいふたうん・鎌倉D・ひらつか西海岸

はだのステーションは2周年を迎えました

【生活クラブステーションとは？】

「生活クラブステーション」は個別配送でも班でもない新しい配送方法です。湘南では現在、はだのcommonsに1カ所開設しています。登録した組合員は注文した消費材をステーションで受け取ります。ステーション開設曜日にはW.Co キャリーが消費材を配送センターから運んで来て受け渡しをしています。運営委員会も拠点として活用し、人と人とのコミュニケーションが生まれる場になっています。

【はだのcommons運営委員長 栗原さんより】

運営委員会ではステーションを活用して会議や企画を開催しています。ステーションができるまでは近隣の公民館などで開催していましたが、自由に使える場ができたことは大きな違いです。まだまだステーションを知らない組合員も多いので、もっと知ってもらってもっと活用していきたいです。

【W.Co キャリー 脇さんより】

個別配送と違ってじっくり組合員と関われるのはステーションならではの魅力です。お茶を飲みながら消費材について話したり試食してもらったりしています。また、受け取りに来た組合員同士で地域の話で盛り上がるなど、横のつながりも生まれています。来た人がホッとできる場になるよう、子育てママやシニアの方などもっと組合員を増やしていきたいです。

【2周年まつりを開催しました！】

賃貸の一軒家で2022年9月に始まったはだのステーション。あず薬局の方を講師に迎え、「薬膳で健康に」をテーマに講座を開催しました。講座終了後、サバ缶で作った薬膳カレーをいただきました。当日は未組合員の参加もあり、はだのステーションを知ってもらう機会になりました。

また、消費材受け取りの日でもあったので、ステーション組合員のみならず、みなさんにもカレーが振る舞われ、大好評でした。



ちがさきデポーリニューアルに向けて活動中

【デポーリニューアルの目的は？】

デポーは湘南エリアでちがさき、らいふたうん、鎌倉、ひらつか西海岸の4つだけです。近隣に日常的に利用する一定数の組合員と一定額の供給高が見込めるという条件に加え、何よりデポーをつくりたいという組合員の意志と行動力でデポーをつくることができます。リニューアル（改修）は10年をめやすに実施し、劣化した設備の更新と魅力あるお店作りをすることと新たな活動参加者をつくることで、持続可能なデポー運営をめざしています。

【リニューアルのためにどんな活動をするの？】

リニューアルはこれからの10年もデポーが存続できるという見込みがあってこそ可能です。ちがさきデポーは今年40周年、デポーを立ち上げ、支えてきた草創期から世代交代の時期を迎えています。高齢化・転居等の理由で脱退し、存続に必要な組合員数や利用高が減ってゆけば、デポーの存続は危うくなります。リニューアルの条件は組合員数を2025年2月までに100名増やすことが重要です。



この春からワーカーズは生産者来所や店頭でのイベントを増やし、運営委員、ワークの組合員で盛り上げ、近隣の人たちの来所のきっかけをつくったり、組合員にはお友だち紹介の声かけをしたりしています。例年よりは組合員数も増えてきていますが、9月末時点では目標人数に達していません。ワーカーズと運営委員会では秋から近隣地域の人たちにデポーを知ってもらうために活動の場を増やし、目標達成に向けて仲間づくりに力を入れていきます。来年はきれいになったちがさきデポーでリニューアルオープンをお祝いできるよう、組合員のみならず、ぜひお友だちやお知り合いを紹介してください。

組織報告	組合員数(8月末現在) 21,246人 (4月期首 21,176人) ●班 1,289人 ●個配 14,145人 ●デポー 5,628人 ●未組織 184人	
	世帯当たり利用高(8月) 17,704円 (前年度同月比 107.5%) ●班 19,463円 ●個配 18,892円 ●デポー 14,313円	
発行	第184号 2024.11.11 湘南生活クラブ理事会	発行責任：上石 理恵 編集責任：米村 聡子

◆消費材「生活クラブでんき」は 平和のエネルギー

私たちの消費材「生活クラブでんき」は再生可能エネルギーが9割以上、食糧だけではなく、エネルギーを自給することにより平和を維持することができます。E推進会議では今年度、コモンズ・デポーで自分たちが興味のある環境に関わる企画などで組合員に会って生活クラブでんきを伝える「エコライフカフェ」を開催、暮らし方を変えずにでんきを選ぶだけでCO₂削減につながるこの活動をすすめています。

◆報告 再エネ・省エネフェア 「ネイチャーポジティブフェスタ」

9月28日(土) 茅ヶ崎市コミュニティホール

<日々の生活からエネルギーを考えよう！>をテーマに湘南生活クラブ主催で再エネ・省エネフェア「ネイチャーポジティブフェスタ」を開催しました。

グリーンファンド秋田からは風車・夢風の取り組みの紹介と風車づくり工作。子どもたちが会場のまんなか集まり、みんなで工作を楽しみました。福島第一原発事故の爪痕の残る地域の様子を上映、さらに再生可能エネルギーと枯渇エネルギー(石油・石炭など)などの話を聞いて、今こそ生活クラブでんきを選ぶ意義と大切さを学ぶことができました。さがみこファームからはソーラーシェアリングによる再生可能エネルギー発電所建設に向けたお知らせがありました。ソーラー



屋台セットをしつらえ、はちみつ食べ比べとおいしいブルーベリースムージーの提供がありました。オルタスクエア(生活クラブ生協の住宅部門)で窓断熱や風力発電のしくみについての話や、手回し発電機と再エネ由来のおもちゃ体験を通じて、でんきができるしくみを知ることができました。生活クラブエナジーのでんきのシミュレーションコーナーでは組合員の相談に丁寧に対応していました。生活クラブでんきを使って消費材をつくるニッコーや夢風ブランドの消費材の試食コーナーもつくり、家族連れのみなさんでにぎわいました。

再生可能エネルギーの生産者や関連団体の人たちに会って、直接、話を聞いたり、質問したりすることで、多くの学びを得て、再生可能エネルギーの必要性や意義への共感をひろげることができました。参加者のなかには、さっそく生活クラブでんきへのスイッチング(契約)をする組合員もいました。



◆上映会のお知らせ

「原発をとめた裁判長 そして原発をとめる農家たち」

今年は各地で災害や酷暑での被害など、さまざまな場面で気候危機について考えさせられました。現状を受けとめ持続可能な未来に向けて、いまこの映画を観ることで、エネルギーについて一緒に考えてみませんか？

日時：12月1日(日)12時30分開場
13時上映開始
場所：ひらしん平塚文化芸術ホール
※参加費無料



【私たちのまちの身近な居場所②】

生活クラブ神奈川では、居場所活動を行う組合員と地域の人たちのアソシエーションを支援するために基金を設けて助成しています。湘南エリアで基金の助成を受けて居場所活動をしているアソシエーションを紹介していきます。

◆はだの common ◆

以前から居場所作り活動に興味のあった私は、たまたま見つけた生活クラブ神奈川の居場所アソシエーション基金のチラシを片手に、「生活クラブステーションはだの」を訪れました。そして仲間を集い、「はだの common」を2022年10月にスタート。地元農家さんの畑ツアー、マルシェやイベントの企画、昨年からは学校に行っていない(不登校の)お子さん、その保護者の会も行っています。

アソシエーション基金をいただけたことで、必要物品の購入、他施設訪問、広報活動など活動をより充実させることができました。行政や他の居場所活動をしている団体ともつながりができたのも基金をいただけたおかげです。(コモンズはだの・五十嵐美和)



生活クラブまちづくり基金

◆「生活クラブまちづくり基金」でできるようになること

10月から「福祉たすけあい基金」が「生活クラブまちづくり基金」に生まれ変わりました。従来は神奈川県全体で福祉団体への助成審査をしてきましたが、これからは横浜北・横浜みなみ・かわさき・湘南・さがみのそれぞれの地域生協ごとに審査委員会を開催し、助成する団体を定めることができるようになります。助成の範囲もひろがり、福祉だけではなく、地域の食や農、環境、エネルギーなど、地域をよくするための市民活動やワーカーズコレクティブの立ち上げなども対象になります。

◆私たちの地域に「あったらいいな」を実現するために

「生活クラブまちづくり基金」には従来通り月100円で参加できます。湘南生活クラブ組合員の参加率は8月末時点で14.8%です。助成の範囲を広げるためには、基金への参加者をたくさんにする必要があります。全員参加をめざし、今年度の目標とする参加率は70%ですが、まだまだ足りていません。「100人の10,000円より10,000人の100円を」、みんなでまちづくり基金に参加することで「あったらいいな」を実現し、持続可能で安心して暮らせる地域にしていきたいと思います。

生活クラブまちづくり基金スタート！ みんなで参加しよう！

あなたのまちで実現したいこと



参加申し込みフォーム



福祉たすけあい助成団体

藤沢市の新たな拠点づくり

湘南生活クラブでは、藤沢市藤が岡にあるUR都市再生機構の建物の一角を活用した新たな拠点づくりを生活クラブ神奈川とともに進めています。

拠点では、W.Coが運営するコミュニティレストランと、地域の方々が集い交流し利用できる多目的な貸しスペース、組合員が活動を展開する生活クラブスペースと、3つの機能を持った拠点づくりをすすめています。現在は意志ある組合員がメンバーとなりW.Co準備会が立ち上がり、事業に関する準備を進めています。同時に湘南生活クラブでも各スペースの内装や設備など話し合いを重ねています。

8月24日には地域のおまつりに参加し、自治会や住民のみなさんと交流する機会をつくり、生活クラブについてお話ししたり、拠点構想をお伝えしたりすることができました。

2025年春の開設に向けて、今後は拠点での企画も開催して行く予定です。お近くの方はぜひ、おいでください。



はたらつく通信②

「はたらつく・ゆがわら」より

7月12日に小田原市UMECOで「はたらつく・ゆがわら」報告会を開催しました。(参加者23名)

「生活困窮者自立支援」としての就労準備支援事業は地域ごとに特徴があり、湯河原は高齢の独居の方の支援が多いのが現状です。メンタル的なことや病気のために、ひきこもりがちになっている利用者の方々の日常生活自立のために行う基本的な調理や片付けのプログラムや、外に出てきていただくためのサロンの開催などについてお話をしました。

「はたらつく・ゆがわら」が行っているきめ細かい一人ひとりに応じた支援への理解が深まり、このような事業をやっていることを知らなかったという感想も多くありました。



はたらつくでは、講座やサロンは組合員のボランティア参加が大きな力になっています。このような活動に関心のある方はぜひ、気軽にお問い合わせください。(はたらつく・ゆがわら代表 柏木晶子)